

ROHM MUSIC FESTIVAL

ロームミュージックフェスティバル
2023 in TOKYO

Rohm Music
Foundation
ロームミュージックファンデーション



2023. 10/14 土
紀尾井ホール

主催：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション 共催：ローム株式会社

Program

ブラームス、そしてその楽友たち ～シューマンとドヴォルザーク

ごあいさつ

この度はローム ミュージック フェスティバル 2023 in TOKYO にご来場いただき、誠にありがとうございます。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションとローム株式会社は、音楽を通して豊かな文化をつくることを目的にさまざまな音楽文化支援活動を継続的に実施しています。特に奨学援助や学ぶ機会を提供するセミナーなど、音楽を学ぶ若い人たちを支援する事業に力を入れてきました。

そしてこのような事業を通じて関わった音楽家「ローム ミュージック フレンズ」の皆様は国内外で活躍されています。

このフェスティバルでは「ローム ミュージック フレンズ」というつながりが生み出す、豪華共演をお届けします。

素晴らしい音楽家たちによる音楽との出会いをぜひお楽しみください。

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

ローム株式会社

企画：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
シニアプロデューサー：善積 俊夫 制作プロデューサー：新井 鷗子 制作：株式会社1002
オンライン ライブ / アーカイブ 配信：カーテンコール

R. シューマン / 3つのロマンス Op.94
R.Schumann/3 Romances Op.94

第1曲 イ短調
I A Minor

第2曲 イ長調
II A Major

第3曲 イ短調
III A Minor

玉井 菜採(ヴァイオリン)
浜野 与志男(ピアノ)

A. ドヴォルザーク / 弦楽四重奏曲 第12番 ヘ長調「アメリカ」 Op.96, B.179
A.Dvořák/String Quartet No.12 in F Major Op.96, B.179 "American"

第1楽章 アレグロ・マ・ノン・トロッポ
I Allegro ma non troppo

第2楽章 レント
II Lento

第3楽章 モルト・ヴィヴァーチェ
III Molto vivace

第4楽章 フィナーレ、ヴィヴァーチェ・マ・ノン・トロッポ
IV Finale: Vivace ma non troppo

玉井 菜採(ヴァイオリン)
城戸 かれん(ヴァイオリン)
田原 綾子(ヴィオラ)
中木 健二(チェロ)

～休憩～

J. ブラームス / F.A.E. ソナタより 第3楽章
J.Brahms/III Scherzo: Allegro from Violin Sonata "F-A-E"

R. シューマン / F.A.E. ソナタより 第4楽章
R.Schumann/IV Finale: Markiertes, ziemlich lebhaftes Tempo from Violin Sonata "F-A-E"

城戸 かれん(ヴァイオリン)
浜野 与志男(ピアノ)

J. ブラームス / ピアノ五重奏曲 ヘ短調 Op.34
J.Brahms/Piano Quintet in F Minor Op.34

第1楽章 アレグロ・ノン・トロッポ
I Allegro non troppo

第2楽章 アンダンテ・ウン・ポコー・アダージョ
II Andante un poco adagio

第3楽章 スケルツォ、アレグロ
III Scherzo: Allegro

第4楽章 フィナーレ、ポコー・ソステヌート～アレグロ・ノン・トロッポ
IV Finale: Poco sostenuto - Allegro non troppo

玉井 菜採(ヴァイオリン)
城戸 かれん(ヴァイオリン)
田原 綾子(ヴィオラ)
中木 健二(チェロ)
浜野 与志男(ピアノ)

Program note

R.シューマン(1810～1856)

3つのロマンス Op.94

ロベルト・シューマンは1810年6月8日にドイツ中東部の鉱山都市ツヴィッカウに生まれました。同年生まれのショパン(1810～1849)が生涯ほぼピアノ曲の作曲に専念したのに対して、シューマンはピアノ曲からスタートしながらも、名ピアニストのクララ・ヴィーク(1819～1896)との結婚を機に、歌曲、交響曲、室内楽曲の分野に進出します。さらに合唱曲、オペラ、オラトリオにまで創作の枝葉を広げ、評論のベンもとって、無名のヨハネス・ブラームス(1833～1897)を大賛辞とともに世に送り出すなど、多彩な活動を繰り広げました。1844年の暮れから1850年9月までに亘る彼のドレスデン時代は、精神の病の悪化にも苦しみ、革命騒動に巻き込まれて逃避行も経験した波瀾の時期ですが、この間の1849年は彼の創作力が旺盛に燃え盛った年でした。「4本のホルンと管弦楽のためのコンツェルトシュテュック」、ピアノ組曲「森の情景」、クラリネットとピアノのための「幻想小曲集」、そしてこの「3つのロマンス」などがこの年に生まれました。この曲のオリジナルはオーボエとピアノ用ですが、オーボエをクラリネット、またはヴァイオリンに替えても可、と楽譜に記されているため、ピアノとヴァイオリンの二重奏曲としても親しまれています。

第1曲：イ短調、速くなく、3/4拍子。憂いを帯びた潤いのある楽想がしっとりと歌われます。終わり近くにヴァイオリンの印象的なカデンツァが奏されます。

第2曲：イ長調、素朴に、心から、4/4拍子。3曲中もっとも有名な曲で、この曲のみ単独で演奏される機会も多くなっています。温和で愛らしい主部といくらかドラマティックな中間部から構成されています。

第3曲：イ短調、速くなく、4/4拍子。寂寥感のある主題から始まり、この主題が変化して明るむ場面も交えながら、しみじみと郷愁を誘う楽想が歌われます。

A.ドヴォルザーク(1841～1904)

弦楽四重奏曲 第12番 へ長調「アメリカ」Op.96, B.179

ボヘミアの寒村ネラホセヴェスに宿屋兼肉屋の跡取りとして生まれたアントニン・ドヴォルザークは、家業を継ぐのに必要なドイツ語を師事したアントニン・リーマン先生が優れた音楽家であったことから音楽に開眼し、プラハのオルガン学校に進みました。卒業後、教会のオルガン奏者、オーケストラのヴィオラ奏者として音楽家生活を開始しますが、当初は貧苦にあえぎ、愛児3人を相次いで喪う不幸も経験しました。しかし、30代半ばでオーストリア政府の奨学金に応募して審査員のブラームスに認められてからは前途が開けます。

1892年9月、すでに国際的な名声を得ていた彼はニューヨーク・ナショナル音楽院の院長に招聘されて渡米し、黒人霊歌やアメリカ先住民の歌から影響を受けて、一連の傑作を誕生させることになりました。渡米の翌年の5月にまず「新世界」交響曲が完成します。そして同年の夏期休暇を、彼は祖国チェコからの移民が多く住むアイオワ州のスピルヴィルで過ごし、音楽院の学生コヴァルジークの実家で大歓迎されました。このとき、感謝をこめて、コヴァルジーク一家が演奏するために書き上げられたのが本作でした。着手日は1893年6月8日、同郷人に囲まれて寛いだ彼のペンは快調に走り、3日間でスケッチを終えると6月23日にこの名曲を完成させています。

第1楽章：アレグロ・マ・ノン・トロppo、へ長調、4/4拍子。ヴィオラが5音音階による親しみやすい第1主題を歌い出して始まり、素朴な第2主題とともに楽章を構成します。

第2楽章：レント、ニ短調、6/8拍子。ヴァイオリンが黒人霊歌風の調べを切々と歌い、チェロがこれを引き継ぎます。中間部はボヘミア民謡風です。

第3楽章：モルト・ヴィヴァーチェ、へ長調、3/4拍子。変則的なスケルツォ楽章。中間部主題は主部主題から派生したもので、スピルヴィルで耳にした鳥のさえずりを模倣したものといわれます。

第4楽章：フィナーレ、ヴィヴァーチェ・マ・ノン・トロppo、へ長調、2/4拍子。快活なロンド・フィナーレ。ロンド主題と対照的なコラル風のエピソードが挟まれています。

J.ブラームス(1833～1897)

F.A.E. ソナタより 第3楽章

1853年の秋、20歳のヨハネス・ブラームスは尊敬するロベルト・シューマンをデュッセルドルフに初訪問して自作を聴いてもらいます。若者の才能に驚いたシューマンは音楽雑誌に「新しい道」と題したエッセイを寄稿し、ブラームスのことを「恩寵の女神と英雄に守護された若者。彼は時代の最高の表現を理想的な仕方で表明するように天職づけられている」と絶賛しました。そして、ブラームスをデュッセルドルフに滞在させ、近くやってくる友人のヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒム(1831～1907)を歓迎するために、弟子の作曲家アルベルト・ディートリヒ(1829～1908)と3人で各楽章を分担して1曲のヴァイオリン・ソナタを合作しました。第1楽章をディートリヒが、第2楽章と第4楽章をシューマンが、第3楽章をブラームスが書いたこの合作ソナタはヨアヒムの座右の銘「Frei aber einsam」(自由に、しかし孤独に)になちなみ「F.A.E. ソナタ」と命名され、ヨアヒムとシューマンの妻クララによって10月28日に私的に初演されました。各楽章の作曲者名は伏せられましたが、ヨアヒムはたちどころに当てたそうです。その第3楽章がブラームス作曲のこのハ短調、6/8拍子のスケルツォです。ベートーヴェンの交響曲第5番に用いられている「運命の動機」が主要モチーフですが、中間部には「F.A.E.」に因む「ファ・ラ・ミ」のモチーフが変形されて使われています。

「F.A.E.ソナタ」を献呈されたヨアヒムは、シューマンもブラームスも没したのちの1906年になってこのスケルツォ楽章のみ、出版を許可しました。全曲の出版はヨアヒム没後の1935年のことです。そうした経緯もあって、現在「F.A.E.ソナタ」の全曲演奏機会は稀ですが、この第3楽章のスケルツォはしばしば単独で演奏されています。

R.シューマン(1810～1856)

F.A.E. ソナタより 第4楽章

前述のように、ディートリヒ、ブラームスと3人で合作した「F.A.E.ソナタ」では、シューマンは第2楽章「間奏曲」と第4楽章を担当しました。イ短調の第4楽章は「はっきりと、速くなりすぎないように」とドイツ語の発想標語のついたフィナーレで、いかにもシューマンらしい、ほの暗く情熱的な第1主題と甘美な第2主題によるソナタ形式で書かれています。終盤ではヴァイオリンが激しく高揚していき、最後はイ長調で終結します。

1953年10月28日の「F.A.E.ソナタ」の初演後、シューマンはすぐに、新たな第1楽章と第2楽章「スケルツォ」を自身で書き上げ、「F.A.E.ソナタ」の第2楽章「間奏曲」を第3楽章に回し、第4楽章はそのまま使って全楽章自作によるヴァイオリン・ソナタをつくりあげました。この新たなヴァイオリン・ソナタはシューマンの存命中には出版されず、没後100年を経た1956年にショット社からヴァイオリン・ソナタ第3番イ短調 WoO.27として出版されています。よって、「F.A.E.ソナタ」の 第4楽章とシューマンのヴァイオリン・ソナタ第3番イ短調 WoO.27の第4楽章は同一のものです。

J.ブラームス(1833～1897)

ピアノ五重奏曲 へ短調 Op.34

1862年、ヨハネス・ブラームスは弦楽四重奏にチェロ1本を加えた弦楽五重奏曲を書き上げ、クララ・シューマンとヨーゼフ・ヨアヒムの意見を仰ぎますが、二人から好評を得られませんでした。そこで彼はこれを「2台のピアノのためのソナタ」に改作し、1864年4月17日にウィーンで、リストの高弟カール・タウジヒ(1841～1871)と自身によって初演しました。それでもなお、クララから「多くの楽想の美しい響きがピアノ2台では伝えきれない」という助言が届きます。彼はやはり弦楽器の滑らかな音の繋がりも大切と考え、ピアノ五重奏曲の形に再改訂しました。こうして、最終的にこの編成に落ち着いた本作は1865年に出版され、1868年3月24日にパリのエラル音楽堂で公開初演されました。試行錯誤の果てについてに到達しただけに、本作は古今の同種室内楽曲の中でも屈指の名曲として、初演以来広く愛好されています。一方、「2台のピアノのためのソナタ」のほうも残されて、現在ではピアノ・デュオの人気曲となっています。

第1楽章：アレグロ・ノン・トロppo、へ短調、4/4拍子。ソナタ形式。激しい情熱を秘めた峻厳な主題がピアノと第1ヴァイオリンとチェロからいきなり示されて始まります。

第2楽章：アンダンテ・ウン・ポーコ・アダージョ、変イ長調、3/4拍子。3部形式。躊躇いがちに歌い出される温かな緩徐楽章。ホ長調の中間部では動きが出て、弦とピアノがやり取りをします。

第3楽章：スケルツォ、アレグロ、ハ短調、6/8拍子と2/4拍子が交互。不安げな表情の主題、スタッカートつきの狭い音程の主題を経て、戦闘的な勇ましいスケルツォ主題が登場します。2番目の主題のフガートが展開されたのちに、せわしない雰囲気の中間部に入ります。その後スケルツォ主題が再帰し、最後は突然終わります。

第4楽章：フィナーレ、ポーコ・ソステヌート～アレグロ・ノン・トロppo、へ短調、2/2拍子～2/4拍子。冒頭は弱奏開始の幻想的な序奏。主部は展開部を欠くソナタ形式、またはロンド形式。後半は6/8拍子になって激しく盛り上がり、最後は一気に曲を結びます。

[萩谷 由喜子]

Profile



玉井 菜採 (ヴァイオリン) Natsumi Tamai
1998、1999年度奨学生
桐朋学園大学卒業後、アムステルダム・スヴェーリンク音楽院、ミュンヘン音楽大学にて研鑽を積む。プラハの春国際コンクール、バッハ国際コンクール、エリザベート王妃国際コンクール、シベリウス国際コンクールなど数々のコンクールに入賞。ソロ・室内楽の分野で活発な演奏活動を行っている。
紀尾井ホール室内管弦楽団コンサートマスター、アンサンブル of トウキョウのソロヴァイオリニスト、東京クライスアンサンブルのメンバー。東京藝術大学教授。
使用楽器は東京藝術大学所蔵のA.Stradivarius“Ex-Park”(1717作)。



城戸 かれん (ヴァイオリン) Karen Kido
2018、2019年度奨学生
これまでにミケランジェロ・アバド国際ヴァイオリンコンクール第1位、カール・ニールセン国際コンクール第4位、日本音楽コンクール第2位など多数受賞。東京藝術大学を首席で卒業し、同大学院修士課程修了。
現在はソロや室内楽、オーケストラへの客演のほか、自らコンサートを企画するなど精力的な活動を展開している。
ラ・ルーチェ弦楽八重奏団、紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。
使用楽器は個人貸与によるピエトロ・ガールネリ1698。



田原 綾子 (ヴィオラ) Ayako Tahara
2015、2016年度奨学生
第11回東京音楽コンクール、第9回ルーマニア国際音楽コンクール優勝。
桐朋学園大学を卒業後、パリ・エコールノルマル音楽院、デトモルト音楽大学を首席で修了。
国内外でソロリサイタルが定期的に行われており、ソリストとして読売日本交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー管弦楽団等と共演。室内楽奏者としても著名なアーティストと多数共演している。第23回ホテルオークラ音楽賞受賞。
サントリー芸術財団よりP.A.Testoreを貸与。エール弦楽四重奏団、ラ・ルーチェ弦楽八重奏団、トリオ・リズル、アンサンブル of トウキョウメンバー。



中木 健二 (チェロ) Kenji Nakagi
2006、2007、2008、2009年度奨学生
2003年小澤征爾音楽塾 塾生
東京藝術大学を経て2003年渡仏、パリ国立高等音楽院、ベルン芸術大学の両校を首席で卒業。2005年ルトスワフスキ国際チェロ・コンクール第1位など受賞多数。ソリストとして活躍するほか、室内楽にも情熱を注ぎ、アッカルド、ジュランナ、メネセス、チュマチェンコ、イヴァルディ、ル・サージュを含むアーティストと共演。キングレコードより「J.S. バッハ：無伴奏チェロ組曲全曲」ほかのCDをリリース。
紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。東京藝術大学音楽学部准教授。
使用楽器は1700年製ヨーゼフ・ガールネリ(NPO法人イエロー・エンジェルより貸与)。



浜野 与志男 (ピアノ) Yoshio Hamano
2012、2013年度奨学生
第80回日本音楽コンクール第1位をはじめ受賞多数。これまでに、日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、セントラル愛知交響楽団、藝大フィルハーモニー管弦楽団等と共演。
2019年、デビュー・アルバム「ステート オヴ マインド」をトリトーン・レーベルよりリリース、好評を得ている。
東京藝術大学を経て英国王立音楽大学大学院修士号およびアーティスト・ディプロマを取得。その後モスクワ音楽院およびドイツ・ライプツィヒにて研鑽を積む。
東京音楽大学専任講師。国内外で公開レッスン開催やコンクール審査にも積極的に携わる。

[ローム ミュージック フレンズ]
奨学生、在外研究生…ローム ミュージック ファンデーション 音楽在外研究生、セミナー生…ローム ミュージック ファンデーション 音楽セミナーまたはローム ミュージック セミナー受講生
学生フェスティバル出演者…京都・国際音楽学生フェスティバル出演者、小澤征爾音楽塾 塾生

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションは
音楽文化の普及と発展のためにさまざまな活動をしています。

音楽文化の発展

事業の中で関わった音楽家「ローム ミュージック フレンズ」は、1991年設立時よりこれまでで4,865人になります。

| | | |
|---------------------|--------|--|
| 奨学生 | 540人 | 国内外の教育機関で音楽を学ぶ学生への奨学金の給付。 |
| 音楽在外研究生 | 64人 | 音楽家の一層の研鑽を図るための在外研究を援助。 |
| 音楽セミナー受講生 | 333人 | プロの音楽家の育成を目的としたセミナー。 現在までに弦楽器クラス、管楽器クラス、指揮者クラスを実施。 |
| ローム ミュージック セミナー受講生 | 11人 | 世界で活躍するローム ミュージック フレンズによる音楽家育成セミナー。 |
| 京都・国際音楽学生フェスティバル出演者 | 2,646人 | 国際交流と音楽家の育成を目的として、世界を代表する音楽学校から音楽学生を京都に招いて開催するフェスティバル。 |
| 小澤征爾音楽塾 塾生 | 1,530人 | オペラやオーケストラを通じて若手音楽家を育成するプロジェクト。 |

※複数の事業で関わった音楽家がいるため、各事業の人数合計とは一致しません。(2023年9月時点)

奨学援助

認定式・報告会を実施し、給付中また給付後すぐの奨学生によるスカラシップ コンサートも開催しています。



ローム ミュージック ファンデーション 音楽セミナー



ローム ミュージック セミナー



京都・国際音楽学生フェスティバル



小澤征爾音楽塾

若手音楽家の育成を目的とした小澤征爾音楽塾の各種公演を共催しています。また、小学生を対象とした「子どものためのオペラ」を共催しています。



音楽文化の普及

新国立劇場 高校生のための オペラ鑑賞教室への助成



©寺司正彦、提供 新国立劇場

日本フィル 夏休みコンサートへの助成



映像配信コンサート (Kyoto x Classics)

京都の名所からローム ミュージック フレンズが音楽をお届けしています。



ローム ミュージック チャンネルの視聴はこちら